

端子台 使用上のご注意

(1) 端子台の定格通電電流

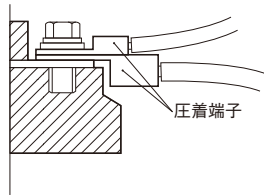
端子台の通電電流は接続する電線によって決まります(※1)。日東工業端子台はJIS C8201-7-1「低圧開閉装置および制御装置—第7部：補助装置—第1節：銅導体用端子台」およびNECA C2811「工業用端子台」に従い、接続するIV電線サイズに応じて、定められた試験電流を通電し、温度上昇値45K以内を確認しています。

定格適合電線	単位 mm	φ1.2	φ1.6	φ2											
	E	1.25	2	3.5	5.5	8	14	22	38	60	100	150	200	250	325
試験電流 A		16	21	30	40	50	70	94	132	175	240	310	370 ※2(400)	430	520 ※2(600)
定格通電電流 A		15	20	30	40	50	70	90	130	175	240	310	400	430	600

- 端子台は、定格適合電線をもとに選定してください。
- 定格通電電流は選定上の参考値です。また、機種によっては(TBP 920頁など)耐熱定格使用電流を表示していますが、その値は耐熱端子台として使用するときに限った電流値です。
- ※1. TK53・103A 922頁は、銘板に記載の定格電流でご使用ください。
- ※2. ()内の値はJISに定められた電流より多く通電し、温度上昇性能を確認しています。

(2) 電線および圧着端子の接続

- 端子台に接続可能な電線サイズはすべてIV電線を基準としています。キャブタイヤケーブルのように素線径の細い電線を束ねた電線は、外径が大きいため定格適合電線が取付かない場合があります。
- 端子台に耐熱ビニール電線 (HIV)・ポリエチレン絶縁電線 (IE)・エチレンプロピレン絶縁電線 (LP)・架橋ポリエチレン電線 (WLI) など、同一太さでIV電線よりも許容電流の大きい電線を用いた時の定格通電電流は、IV電線の定格通電電流と同一です。(端子台の定格通電電流は増加できません)
- 端子台の定格適合電線は、R形圧着端子を基本としています。CB形圧着端子を用いて定格適合電線よりも太い電線を接続することは可能です。しかし太い電線を接続しても、端子台自体の定格通電電流は変わりません。
- 溶剤レス端子、スプリング端子へのより線接続はハンダあげをしないでください。過熱の原因となる場合があります。また、多数本の電線を同時に接続しないでください。芯線の細いより線の接続はしないでください。
- 圧着端子を重ねて使用する時は、上下背あわせにし、端子台に接触しないように接続してください。
- 圧着端子の大きさが違う場合は大きい方を下側に接続してください。
- 下側の圧着端子は取付可能なものを使用してください。
- 圧着端子の種類によっては、絶縁距離不足になる場合があります。必要に応じ絶縁処理をしてください。



〔圧着端子の重ね合わせ取り付け〕

(3) 端子ねじの締付けトルク※3

	座金付 なべ小ねじ	線押え端子	六角ボルト	六角穴付ボルト	スタッドボルト	溶剤レス
	圧着端子	圧着端子 電線直付	圧着端子 銅バー	圧着端子 銅バー	圧着端子 銅バー	電線直付
M3.5		0.8~1.2N・m				
M4	1.2~1.8N・m	1.2~1.8N・m				
M5	2.5~3.5N・m	2.0~2.5N・m(TBE) 2.5~3.5N・m(TBP)				2~3N・m(TBN) 1.5~2.5N・m(HP-J)
M6	4~5N・m		3.5~5N・m			4~5N・m
M8	6~8N・m(HP-J・TBZ) 5.5~7.5N・m(TBF・TK)		8~10N・m(TBE) 8~13N・m		8~13N・m	8~13N・m
M10			15~25N・m		15~25N・m	15~25N・m
M12			40~50N・m		21~50N・m	
M16			60~100N・m		38~80N・m	

※3. 締付けトルクの単位N・mをグラム単位に換算するには、 $1\text{N}\cdot\text{m} \div 0.098 = \text{kgf}\cdot\text{cm}$ となります。